

すべての「生きもの」たちへ。

Bc900

ハコブネ

世界をくまなく
歩きまわっている完全新作。

The Room, Nobody knows

誰も知らない貴方の部屋

アルシユの袋縫い、老朽の名作

宮城聰

タニノクロウ氏の自宅劇場を「はこぶね」と命名したのは松本雄吉氏だそうだが、実能的を射たネーミングではなからうか。

方舟には世界の全ての生きものが詰まっている。そして庭劇団ペニノのはこぶねは、袋縫いしてそれを裏返したように、タニノ氏を取り巻く全世界が、タニノ氏の内部となつてすべて詰まっている。

いや、正確には全世界ではない。方舟に詰まっているのは「生きもの」だけだ。そしてタニノ氏の興味も、徹底して「生きもの」に向けられている。

多くの演劇人は「人間」に興味を向ける。だがタニノ氏は違う。彼が見るのは「生きもの」だ。「生きもの」の発するマヌケ感とヒリヒリ感。「生きもの」がみな「生きよう」とするゆえに、そして実際に生き抜いているゆえに、必然的に発するマヌケ感。そして「生きる」

ことがあまりにもさらけ出されるがゆえに時として立ちのぼるヒリヒリ感。それがペニノの世界だ。

だが考えてみると、方舟というものは、生きものが詰まっているというだけではない。方舟そのものが、時間の経過とともに、少しずつ、朽ちてゆくのである。そしてタニノ氏の視線もまた同じで、生き急ぐ生きもの、と、そのまわりで、ゆっくりと朽ちてゆく方舟、という「ふたつの時間軸」を見ているのだ。生きものの時間軸と、「はこぶね」の時間軸の絶妙な対比。

そう、はこぶねにも、崩落する時が来る。いまここで観られるのは、不朽の名作ではなく、老朽の名作である。

※アルシユ (Arche) とは、フランス語で「方舟」のこと。
(みやきさとし / SPAC 芸術総監督)

庭劇団ペニノ20th

作・演出・美術
タニノクロウ

The Room, Nobody knows

◆庭劇団ペニノ◆

タニノクロウを中心に 2000 年結成。近年では、劇団アトリエ「はこぶね」公演『苛々する大人の絵本』(2008 年初演) をドイツ・スイス・オランダ・ベルギーで上演。2011 年 6 月には静岡にて「ふじのくににせいかい演劇祭」に参加し、野外劇『エクスターズ』を上演した。タニノ外部演出作品としては、東京芸術劇場主催公演チェーホフ生誕 150 周年記念『チェーホフ?』などがある。

Blog: Peningophilia—庭劇団ペニノ公式ブログ—(<http://d.hatena.ne.jp/peningophilia/>)

Twitter: @niwagekidan

|| 作・演出・美術 || タニノクロウ

|| 出演 || 飯田一期
島田桃依 (青年団)
瀬口タエコ
山田伊久磨

|| 構成 || 玉置潤一郎
山口由紀子
吉野万里雄

|| 特殊造形 || 小此木謙一郎 (GaRP)

|| チラシ表面イラスト || タニノクロウ

|| 宣伝美術 || 奥秋圭

|| 演出助手 || 森準人
飯屋浩太郎

|| 制作助手 || 北澤芙美子
丸山立

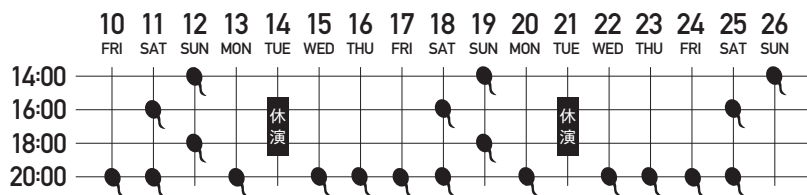
|| 制作 || 小野塚央

|| 助成 || 芸術文化振興基金
公益財団法人 セゾン文化財団

|| 企画 || 庭劇団ペニノ

|| 協力 || ハイレグタワー
青年団

2012 年 2 月 10 日 - 26 日 (全 20 公演)



チケット料金 | 前売 2500 円 | 当日 2800 円

チケット取扱い | 劇団HP www.niwagekidan.org

お問い合わせ | niwagekidan@gmail.com

チケット発売日 | 12 月 23 日 金

会場

はこぶね
(劇団アトリエ)

渋谷にある古いマンションの一室を
自ら改造した劇団アトリエ。
命名は維新派・松本雄吉氏による。



『小さなリンボのレストラン』(2004年)



『苛々する大人の絵本』(2008年)
撮影=Pierre Boraschi

TPAM

国際舞台芸術ミーティング (TPAM) in 横浜 2012
TPAM ショーケース参加作品
(Performing Arts Meeting/TPAM in Yokohama 2012 TPAM Showcase Program)